

太田市住民協議会（第5回）
議事概要

太田市



第 1 分科会

区分	第 1 分科会
コーディネーター	構想日本 政策スタッフ 田中 俊
日時	2018 年 11 月 17 日 (土) 午後 2 時 00 分～3 時 50 分
場所	太田市役所 10 階 10A 会議室

雑がみについて

個人の取組みとして：

- ・ 個々の分別を実施し、行政センターなどを活用してごみを捨てる。
- ・ 家庭内でも家族に周知していく。

地域の取組みとして：

- ・ 小中学校の育成会でやっている資源回収などを、年2回でなく増やしていく。実施回数を増やすのは負担も大きいので、時期をずらして小学校は春と秋、中学校は夏と冬というようにして年4回にしたらどうか。
- ・ 今は資源回収の時期が近いが、時期がずれば家庭でもダンボールや新聞を置いておけるし、学校や育成会にも利益のバックが増える。その方が目に見えて成果も出て、協力してくれた人や地域にも伝えて次回の励みになれば、みんながやる気になると思う。
- ・ 行政センターの出す所に雨に濡れてもいい看板を掲示する。
- ・ 地域の回覧板などで定期的にまわして周知する。

その他：

- ・ 広報で雑がみの分け方の一覧表を配り、切って使えるようにして家庭で参照しながら雑がみを分けられるようにする。また、雑がみ以外でも、知らないこともあると思うので、広報に出し方の例を掲載してもらう。

ごみへの関心について

個人の取組みとして：

- ・ 子供が小さい頃から、一人一人が家庭や家族からごみの減量化を徹底していく。まずは自分の家庭から近所やまわりに発信し、分別の意識をまわりに知らせていく。学校の授業でも、ごみの減量についてやってもらえれば、小さいうちから分別の意識を徹底し高めていくことができるのではないかと。
- ・ 個人個人で意識してごみの減量を進める。

地域の取組みとして：

- ・ 分別して出す人はわかっているが、今まで以上に回覧板での周知や自分の地域だけでなく、他の地域のステーションを見て参考にしてみるのもいい。
- ・ 太田市として減量化の目標をHPや広報に掲載し、それを各地区や組単位で環境委員などの担当を決めて周知する。また、委員さんの負担にならないように、年1回の会議などの集まる機会にでも、太田市側から講習会を開きごみ問題の人材育成をしていく。

- ・ 私たちが住民協議会で5回やったことを活かし、サポートできるよう10年とか長い目で目標を定めて実施し、実績が見えるように頑張ったことが市民にわかるようフィードバックし、市民の励みになるよう地区ごとに棒グラフにして、目に見えてわかるようにしてほしい。講習会も10年かけてすれば、毎年人が変わり10人が何百人とかに増えて、市民の意識も変わっていくと思う。
- ・ 個人で周囲の人に言うだけでは難しいので、小中学校で生徒や保護者が集まる所で、広報活動して周知していく。後は行政で後押ししていけば多くの人の意識が変わっていくのではないかな。

その他：

- ・ 小中学校からの一斉メールを活用し、ごみの収集日の配信とかしたらどうか。若い世代は回覧板よりは学校からのメールは必ず見る。
- ・ ごみのこと・環境のこと・地球のことを考えるようなセミナーを実施してほしい。ごみの減量の推移や市や県、国などとの比較を随時報告する。
- ・ 意識を高めるために太田市のマスコット「おおたん」を活用したらどうか。

将来ごみになるものを減らすことについて

個人の取組みとして：

- ・ ごみになるものを買わない、粗大ごみなどは、買い取り業者などをうまく利用する。

住民協議会を通しての感想

- ・ この協議会に出たから自分なりに、ごみについて考えることも増えた。このテーマに限らず、市の主催するもので面白そうなテーマがあれば、また参加したい。
- ・ ごみについて前より考えるようになった。とても貴重な経験をさせて頂き有難かった。知人にもごみの話しをすることも増えた。
- ・ ごみは奥が深いと思った。この協議会に参加したことで、自分も分別してごみを出すようになった。ごみへの意識も高まった。
- ・ とても勉強になったので、また機会があれば参加したい。
- ・ 今回の住民協議会にも当たり、裁判員裁判にも当たったので自分にとって良い経験になると思い参加した。主婦なので、ごみのはいつも考えているが、ダイエットと同じで、いつかはやろうと考えていたが、この協議会に参加して自分にとって今日からになった。いつも意識して分別するようになり「ごみぐせ」がついてしまったような感じ。ごみに対しても楽しく分別できるきっかけになった。これからも頑張りたいと思う。
- ・ この協議会に参加して、家庭でも雑がみを入れる袋、プラを入れる箱をつくり私に分けるようになった。この分別が我が家だけでなく、近所にも広がれば良くなっていく

と思う。群馬県がごみの一人当たりの排出量が全国の中で低い順位と聞いてショックだった。それを心の励みにして、まずは太田市から良くするぞと頑張っていけたらと思う。

- ・ この協議会に参加するまで、ごみ減量への意識はなかった。2回目には45Lの袋でごみを出していたのが30Lになり減量に成功した。太田市へのお願いとして、国会で入管法改正の動きがある。太田市は工業都市で外国人が入ってくるので、大変だと思うがごみステーションに各国の外国人向けの看板を掲示してほしい。
- ・ 小学校の教員をしているので、自分にとっていい経験ができると思い楽しみだった。テーマもごみで興味があった。いろいろな立場の人から話しが聞けることが有意義だったので、この住民協議会で吸収したことを職場に持ち帰り活かしていきたいと思う。
- ・ この協議会に参加したのは、ごみ問題に興味があって土地を汚さない意味で参加した。自分では分別できていると思っていたが、清掃センターを見学してみて、煙の有害成分を山形まで持って行って埋めていると聞いて驚いた。これからも、ごみのことを考えていこうと思った。
- ・ 私は今まで、ごみに対してあまり関心はなかったが、これからは家族や地域の人とごみの話しができるような場所づくりをして、ここで出されたいい案を周知したい。太田市の環境が良くなり、違ってきているなど目に見えてわかれば、やりがいがあるのではないかと思う。
- ・ 今回はごみの問題がテーマで身近だったので参加した。皆さん分別などは良くやっていると思う。町も以前より綺麗になっているので、雑がみなどの分別もすれば成果も出るのではないか。ごみの分別については、これから長い目でやっていこうと思う。
- ・ 雑がみについては全然知らなくて、雑誌と雑がみを一緒に出していた。雑がみの分別についても地区の回覧板などで、もっと詳しく周知すれば良くなると思う。

第2分科会

区分	第2分科会
コーディネーター	市原市総務部 次長 高澤 良英
日時	2018年11月17日(土) 午後2時00分～3時50分
場所	太田市役所 6階 6B会議室

主な論点

雑がみについて

個人の実組みとして：

- ・ リサイクルの分類として、雑がみという分類があることが知られていない。
- ・ もえるごみではなく、雑がみという1つの区分として認識し、分別する。
- ・ 雑がみの90%はダンボールになると以前テレビで見た。海外での需用などもありダンボールが値上がりしている。個人にも価格の跳ね返りで影響があることや資源の枯渇などを認識して、リサイクルを進めなくてはならない。

地域の実組みとして：

- ・ 地域などの人の集まるところで口コミにより雑がみの分別を広げる。
- ・ 収集場所・回収方法で今は行政センターのみ、そこまで行けない人もいる。
- ・ スーパーやステーションなど雑がみの回収場所が増えると、出しやすくなり意識も変わるのではないか。
- ・ 行政センターとは別にもう少し近いところに、いつでも出せる場所があるとよい。

その他：

- ・ 雑がみの行方を知りたい。雑がみが何かに代わっていることを知れば、ごみではないことが理解できリサイクルにつながると思う。
- ・ 家でも雑がみを分別したらごみが半分に減った。雑がみの分別が進んだときに、どのくらいの効果があり、どのような還元があるのかを見える化されるとよい。

ごみへの関心について

個人の実組みとして：

- ・ 会社などではごみは分別せずにすぐに捨ててしまうことが多い。家庭外でも意識的に分別するよう意識する（特に男性）。

地域の実組みとして：

- ・ 地域で作ったごみに関する情報を回覧板で回すなど、情報をもっと身近にする。

その他：

- ・ 小中学校では分別の勉強をするが、大人になるに従い分別の意識が低くなっていく。高校や大学でもごみについての授業があるとよい。
- ・ 大人も子どもも関係なく、ごみの種類などに関心を持ち理解してもらうために清掃センターの見学ができるとよいと思う。
- ・ パンフレットなどの紙ではなくスマホなどを利用して分別などの情報を広めると紙の

減量にもなる。

- ・ 行政には生ごみ処理機等の補助などを家電販売店に協力いただいたりしてお願いしたい。

住民協議会を通しての感想

- ・ 徹底して家庭で分別をするようになった。
- ・ ごみに対してリサイクルという意識がなかったが、ごみから雑がみまで自分にできることを続けていきたいと思う。身近なところからリサイクルを広げていきたい。
- ・ 今回、ごみについて改めて認識した。
- ・ ごみは資源なんだという意識にかわった。このような機会を続けていけると良いと思う。
- ・ 雑がみを初めて知った。ごみの処理やその後の話を広めてもらいたい。
- ・ 30年くらい前に住んでいた新潟の若い議員さんがごみについて活動していたことを思い出し、ごみの問題はなくならないで続いていくものだと思った。
- ・ 行政には資料提供をもっとしてもらいたい。今回の住民協議会は良かったと思う。
- ・ いろいろな年代の人の話を聞くことができ良い経験になった。
- ・ 今回、参加して生ごみをもえるごみで出さず畑に埋めるようになった。
- ・ 雑がみを分別したところごみが減った。家族はめんどくさいと言っていたが、だんだん協力するようになってきた。分別は意識しないとならない。自分のところだけ減ればいいだけではない。会議の回数が多くてもよかったと思う。
- ・ ごみの分別には努力が必要。
- ・ レジ袋(ごみになるもの)はもらわない。雑がみの分別をはじめた。
- ・ 雑がみを分別するようになったらごみが減り、ごみ出しの回数が減った。
- ・ 家族(孫たち)に分別させている。清掃センターの見学の時に分別の説明があるといいと思う。